

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている	乗用車販売店 (販売担当)	単価の動き	・金額よりも質を重視した購買行動が増えており、結果として単価が上がっている。
		通信会社(企画 担当)	販売量の動き	・時季的なものもあるが公募が多く出ている、大型の物が目立つ。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・熊本地震以降受注が伸びている。4月に比べ倍増の見込みである。
	やや良く なっている	一般小売店[生 花](経営者)	お客様の様子	・熊本地震後の状態だが、建築業、解体業は数年先まで忙しいと聞く。その業界を中心に景気はかなり良くなっている。政府の支援もあり、町にも人通りが多く、また県外から支援に来ている人の落とすお金が回っている。
		百貨店(マネー ジャー)	販売量の動き	・熊本地震から3か月が経過し、自粛ムードが若干和らいできたことや、急な気温上昇により衣料品の動きがでてきたこと、企業のボーナスが前年業績を鑑み高めに支給されていることなど、7月に入り、上昇の兆しがやや出てきた。
		百貨店(売場担 当)	競争相手の様子	・百貨店全体としては前年同月の売上を超えている状況である。弊社については企業間競争について若干弱含みである。今までは食品がけん引していたがここに至りて衣料品が若干上がってきている。客単価については今月は食品、非食品ともに前年を割っている。
		百貨店(企画)	販売量の動き	・九州ふっこう割の効果もあり、熊本地震後鈍っていた客足が回復している。また、梅雨明け後の天候にも恵まれたおかげで、不振が続いた衣料品も好調に売上を伸ばしている。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・これまで食料品が良かったが、さらに日用雑貨の動きも良くなってきている。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・熊本地震により大型店が1店舗、スーパーが2店舗閉店した影響で、前年を大きく上回る売上となっている。競合店が開店次第、平常に戻るが1年間くらいは現状が続く。
		コンビニ(エリ ア担当・店長)	来客数の動き	・熊本地震の影響で少しは需要が見込めていたが、梅雨が明けてからソフトドリンクやアイスクリーム等の冷たい商品が毎日、去年より売れるようになった。特にソフトドリンクの売上は前年比120%である。
		家電量販店(総 務担当)	販売量の動き	・やっと梅雨明けし、エアコンを始め季節商材の動きが出てきた。オリンピック需要は今一つである。
		家電量販店(広 報・IR担当)	販売量の動き	・季節要因のために、季節商材の動きが良くなっている。
		その他小売の動 向を把握できる 者[ショッピング センター] (支配人)	販売量の動き	・例年以上の猛暑から、季節商材の需要が上昇していることから、売上増加傾向にある。特にファッションカテゴリーと、シネマコンプレックスを中心としたアミューズメント関連が2けた増と好調である。
		その他小売 [ショッピング センター](広 報担当)	販売量の動き	・現状猛暑と早い梅雨明けで夏物を中心に動きが良い。このまま高温多湿傾向が続くと夏物を中心に好調傾向が継続する。
		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・2～3か月前の熊本地震の時に比べると少しは戻ってきている。例年のこの時期と比べると今一つ変わらない。
		観光ホテル(総 務)	来客数の動き	・熊本地震の影響がある。
		都市型ホテル (副支配人)	お客様の様子	・熊本地震以降、外国客が戻ってきた。一般の学生団体等のスポーツ団体が予定通り訪れた。
		旅行代理店(従 業員)	お客様の様子	・熊本地震後は自粛、出控え傾向にあったが、九州ふっこう割の販売が始まり、九州域内での予約件数は増加してきている。一方では、東京、京阪神への旅行需要が低迷しており、販売高は上がりず厳しい状況である。
		旅行代理店(企 画)	販売量の動き	・全体的に前年比は良くない傾向である。九州ふっこう割等の販売で潤っているオンライン旅行会社はあるかもしれないが、リアル店舗に関しては厳しい状況である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・大型クルーズ船の停泊施設が2か所になった影響も大きく、着実に外国人観光客が増加している。また大小催し物も多彩で夏休みに入り活気にあふれ、タクシー売上も前年比10%程度増加した。

	通信会社（営業担当）	単価の動き	・前年同期比で顧客単価の上昇率が大きくなっている。
	観光名所	来客数の動き	・熊本地震以降激減した客が夏季休暇に入ったことで戻り始めたので、風評被害は回復しつつある。
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・梅雨明けが例年より早く季節商材の売行きが堅調な動きを見せているが、単価は低く大きな売上の伸びはみられない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・可もなく不可もなく前年並みの売上で推移している。
	商店街（代表者）	単価の動き	・セール時期に入っており、定価品が売れずセール品のみが動いている。処分品なので金額が小さく、数多く売れても総額は上がらない。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・土用のうしの日間近ではあるが、動きが悪い。ある程度は売れるが、それ以上はなかなか伸びない。今は色々ところでウナギを売っているので、何か特徴を持たなければいけない。
	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・景気変動の要因が見当たらない。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・曜日の関係でセールのスタートが7月になったため販売額は前年を上回っているものの、客数は前年並みも客単価の減少で内容は厳しい。飲食テナントは前年の競合店閉鎖の反動により大きく苦戦している。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・豪雨とその後の高温に加え、夏のキャンペーンの開催がなく、客の街へ繰り出す意欲が減退し、入店客数係数が下降している。お祭り等のイベントで一時的な人出はあるが、当店を含め近隣各店舗への購買来店や、通り会通行の客が減少しており、夏休みイベント開催で回復を図っている。紳士服や婦人雑貨及び季節商材のスカーフ、手袋の動きは良いが主力の婦人服購買抑制が続いている。
	百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・6月後半の天候不順や7月の梅雨明けが昨年より早まったことで、6月の夏物苦戦、7月セールでの夏物回復が顕著に表れた。春夏シーズン全般に衣料品は苦戦したが客は値下がりするタイミングを待っており、値頃価格志向はむしろ強まっている。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・熊本はまだ商業施設の再開ができていない所もあるため、人が集中するところが決まっている。その部分だけを見ると、にぎわいがあるように見えるが景気が良いわけではない。趣味やし好性の高い商材は動きがなく、生活必需品と見舞いに対する返礼のギフトが多い。
	百貨店（営業統括）	来客数の動き	・7月は、前半の雨や参議院選挙等もあり客の動きも鈍かったが、梅雨明け以降、少しずつ回復傾向にある。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・ボーナスが出たせいか、客に笑顔が出るようになったが、今後の状況は不安定である。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数も買上点数もほぼ横ばいである。生鮮物が売れないが、すぐに食べる即食型のデリカの上売が良いため、全体としての売上は横ばいである。
	スーパー（店長）	単価の動き	・全体で売上は順調に推移しているが客単価が伸び悩んでいる。競合店の出店もあり価格競争も避けられない。客数を維持するために売上は維持できているが、利益面で苦戦している。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・梅雨明けの猛暑で衣料、食品等の涼味商品、盛夏商品が順調に動いている。
	スーパー（総務担当）	単価の動き	・全体の売上は前年を上回って推移しているが、客単価の上振れはみられない。
スーパー（統括者）	販売量の動き	・売上高から見てあまり変わらない。	
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・客の購買意欲についてだが、必要なもの以外はほとんど購入しない。土用のうしの日のウナギの予約に向けての活動を行ったが、なかなかプラスアルファの食事には財布のひもが固い状況である。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・梅雨明けが例年より遅く天候に恵まれなかったため、客足が鈍化した。売上にも大きく影響し、厳しい結果になった。	
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・6月末から今月にかけて来客が続いており、7月初めにプレミアム付商品券で早速支払う客がいたり、熊本地震の影響がやや薄れ、客が少しお金を使う気分になってきた。	

衣料品専門店 (店員)	来客数の動き	・セール前の顧客対象のシークレットセールは、来客も例年並みで売上も順調に取れた。しかし、月半ばからクリアランスセールに入ると期待したほどの盛り上がりはなかった。来店客が前年を下回り、売上も若干落とした。
衣料品専門店 (取締役)	お客様の様子	・7月はセール時期であるが、必要なものを必要な分だけしか購入しないという傾向はここ何年も続いている。売上が3か月前より伸びているようでもセールのため、利幅はさほど大きくない。たくさんまとめ買いする客が少なく、セールでも1つ、2つしか買わない客が多い。財布のひもは固いということである。
乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・新車販売台数が伸びない。特定の人気車種しか売れない厳しい状態が続いている。
乗用車販売店 (代表)	競争相手の様子	・同業者からあまり景気の良い話を聞かない。
その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	販売量の動き	・7月はお盆の時季でありコーヒーギフトがよく出る。客層は前年と変わらないがギフトを購入する量が増えている。そのため、前年比で売上は上がっている。
ドラッグストア (部長)	販売量の動き	・7月前半の売上はそれほど伸びなかったが、梅雨が明けた7月後半から売上が好転している。好天が続く、また気温が高いことから、季節商材の売行きが良い。また、インバウンドの客についても伸びてきている。
その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	販売量の動き	・燃料油の小売価格はやや上昇傾向にあるが、梅雨明け後は猛暑の気候が継続しており、燃料油の販売状況は好調である。また、客にもボーナスが支給され、カーケア商品も少しずつ売れ出している。
その他小売の動向を把握できる者 [土産卸売] (従業員)	来客数の動き	・空港を利用する客数は前年と大きく変わらないが、商品を購入する客が少ない。購入金額も少ない。
高級レストラン (支配人)	お客様の様子	・安定した客は変わらず、プチぜいたくを愉しみたい客の来店が減った。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・前年と同様の来客数及び売上である。ただ、これから良くなる感じはない。
居酒屋(経営者)	来客数の動き	・前年割れている店舗が多く、飲食店の稼ぎ時である週末も人の流れが少ない。
観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宴会関係は通常通り予約が入ってきているが、宿泊がまだまだ通常に戻っていない。熊本地震の影響が続いている。
都市型ホテル (販売担当)	販売量の動き	・今月は婚礼・宴会利用はプラスで良い傾向である。しかし宿泊・レストランはあまり良くなく、個人消費はあまり良くない。
タクシー運転手	来客数の動き	・日中の稼働率が思った以上に大変良く、売上もアップしている。夜の繁華街の客の動きも良くなっている。
タクシー運転手	お客様の様子	・歓楽街の動きが非常に悪い。新作スマートフォン向けゲームが出てから、若い人が公園に集まり、歓楽街へ行く人が少なくなった。
ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・梅雨が明けて入場者数が戻ると思ったが、暑い夏がまだまだ続く状態で、ボーナス支給額も昨年以下の状態で良い材料がない。入場者数も前年を15%下回っている状態である。
美容室(店長)	お客様の様子	・夏祭りへ行く学生をターゲットにした着付けセットを目玉商品にして売上アップを狙ったが、浴衣を着ようと思わないのか、今の所予約はない。景気は変わらない。
その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス] (管理担当)	単価の動き	・介護人材の確保が年々厳しくなっており、特に訪問系サービスの人材においては前年同月比減で顧客サービスに対応できなくなっている。
住宅販売会社 (代表)	それ以外	・同業者の倒産が2件くらい続き、仕事量よりも利益率が落ちている。業績が落ちている所が増えている。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き ・零細企業の多い当商圏は夏のボーナスが少なく、消費者の購買意欲が感じられない。商店街に来街者が減少しており、当然来客数と店頭売上高も減っている。

	商店街（代表者）	お客様の様子	・今月は全般的に雨が多く、中旬からは猛暑が続き、客は近くのスーパーやコンビニに涼しさを求めて買物に行っている。当商店街は空調設備がないため、来客数が見込まれていない。
	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・県外の野菜の相場が上がりきらない。信州長野から来るレタス、福岡からくるサニーリーフ、例年夏場で需要が上がるが、前年比2～3割安い。輸送コストが掛かっている割には相場が上がりきらない。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	お客様の様子	・雨の日が多く急なゲリラ豪雨が数日続き、外は人も通らず売上は前年同月より減少している。ボーナス時季でもあるが小売店にはあまり関係なく全く売上に反映されない。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・3か月前の熊本地震におけるマイナス要因は払しょくできたが、その後の英国のEU離脱問題を含め、判断しづらい状況にある。参議院選挙も終わり、先月に比べて7月はやや落ち着きが見られる。単価について、百貨店のなかでもデフレ傾向は始めている。セールの出だしは非常に好調であった。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・引き続き好調を維持しているが、衣料品販売が鈍化しつつある。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・暑い日が続く、季節商材の動きは活発であるが、牛肉の高騰や魚の不漁のため、特に肉・魚部門の前年割れが続いている。総合的に生鮮部門が低調で飲料、乾麺などの加工食品は堅調である。
	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・当店が所属する商店街の他の競合地域との競合関係における劣位による来客数の減少、及び当店が主力得意先とするシニア層の購買意欲低下による来客数の減少が非常に顕著に現れている。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・今月の景気については悪い。今年の冬が暖冬でその反動で6月まで上向きであったが7月に入って逆の反動が出た。オリンピック需要でテレビなどが出ると思っていたが、それも空振りに終わっている。
	住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・毎月のキャンペーン、店売り共に前年同月比で悪い。来客も少ない上、妥協せず満足のいくものしか決めない。
	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	単価の動き	・外国人観光客の爆買いがなくなり、大幅な単価減の影響があった。また、熊本地震の影響で海外個人旅行者も減少している。
	タクシー運転手	お客様の様子	・あまりにも昼間が暑すぎるためか、人やタクシーの動きが悪い。夜は少しは盛り返すが到底追い付かない。
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・通勤族の動きがあり生徒数が減っている。
	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・市内のマンションや住宅の着工件数はある程度あり売上順調だが、住居用で売れているというよりは投資用で売れているため、潤っているのは一部の会社である。為替の影響もあり、輸入業は良いが輸出業は良くないという経済になっている。
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が減少しているので小売りが大幅に減少している。鍵や印刷関係は横ばいである。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・熊本地震後の風評被害、経済被害で来客数が減っている。消費マインドも落ち込んでいるので販売数量も減っている。大変厳しい状況である。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・熊本地震の影響は観光や農作物等一部に影響があった。売上が少し伸び悩んでいる。全般的に景気が悪くなっているようである。
	高級レストラン（専務）	来客数の動き	・財布のひもが固くなっており、外食回数も減ってきている。町の中心街も人通りが少なくなっており、なかなか回復しない。
企業動向関連 (九州)	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・熊本地震後、分散生産を行っていたが7月より自社工場内に分散していた生産工程の取り込みを開始した。得意先の生産量も増加傾向である。

	新聞社〔広告〕 （担当者）	受注量や販売量の動き	・7月は参議院選挙関連の広告に加えて、九州ふっこう割の告知で自治体や関連団体の広告出稿があり、プラスが見込まれたが、前年同期の大型案件が月ずれのため6月掲載となり、全体としては前年比94%となった。
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・梅雨明けが遅れたことが影響し、予想に反して7月は販売状況が悪い。熊本地震の影響もいまだ残っているため、販売状況が思わしくない。冷凍食品メーカーも少し元気がない。
	農林水産業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・市況価格や流れが若干ではあるが、下り基調である。
	繊維工業（営業担当）	それ以外	・工場の縮小や閉鎖のために、受注が回ってきている。人員募集はするが、なかなか集まらない。最低賃金の上昇のため、人員の確保も難しい。仕事をどんどんしたいのだが、できない歯がゆさがある。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ホテル等の新規出店に伴う家具需要は相変わらずおう盛だが、その他の商業施設やマンション等の新規物件は横ばいかややマイナス傾向となっている。しかし新作スマートフォン向けゲームの配信により大手ファーストフード店など飲食店の新規出店が増えるとマイナスを補える。
	金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・例年と比べ特段の違いはない。設備投資の勢いはない。参議院選挙、都知事選挙後に動きは出てくる。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・金属加工部門では引き合いは通常並みだが、見積単価が厳しく思うように受注量が上がらない。設備製作部門では年度初めでもあり例年通り仕事量は少ない。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の発注は、第2四半期になって少しは増えてきたが、くじによる同札入札が多く、まだ受注できていないのが実情である。偏りが多く、運で仕事を受注する方式になっており、まだ同業者でも受注できていない業者も多い。
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・酷暑のせい、食料品・アパレルを中心に動きがある。この時期、新卒対象の採用活動を行っているが、国内製造業が活況であるためか、関東圏の企業などからの求人数が多く、これが景気回復の兆しであるのかどうか判断を迷わせている。
	通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・季節的な要因でもあるが、IT関連の受注量が横ばいである。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・消費者のマインドが慎重であるほか、熊本地震の影響で観光客が減少しており、百貨店・スーパーなどの売上が伸び悩んでいる。一方、雇用環境は着実に改善しており、雇用者所得も緩やかに増加してきている。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地域は熊本地震の直接的な被害もなく、各取引先も大きな変化はない。調達コストが低下傾向にあるが、景気の先行き見通しに慎重な姿勢からか、足元の資金需要についても伸びが見受けられない状況である。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・熊本地震の影響も残るが、建設関連を中心に復興需要が始まっている。
	金融業（営業）	取引先の様子	・年末から半年ぐらい先の設備投資の話は出てきているが、足元の需要は乏しい。3か月前に比べて落ち込むことはないが、停滞している。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・建設業及び運送業は受注も多く、業況は堅調に推移しているものの、物販は消費が鈍く売上の低迷が続いている。総じて現状は変わらない。
経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・客の動向を通じていえるのは活発な動きが見られないということである。客は販売先の縮小が悩みである。	
経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・酒小売店の業態変更、取扱商品の変更が増えている。	
経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・客や取引先企業に受注状況を聞くと、大きな変化がないという回答が多い。	

	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・取引先の業況は各社順調な様子である。投資案件も計画通りで、当県では熊本地震の影響によるマイナスの影響は出ていない。車両リース契約が少しずつ増加している。ファイナンス目的よりもメンテナンスを含めた外注化が客のメリット大な様子である。補助金を活用したエネルギーコスト削減提案は経営者にヒットしている。売上アップよりも経費削減のほうが効果が早く、確実なのかもしれない。
やや悪くなっている	その他製造業（産業廃物処理業）	受注量や販売量の動き	・半導体関連の受注落込みが目立っている。鉄鋼関連も相場が低迷しており先行き不安が続く。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・企業活動においてはなかなか売上が上がらない。消費活動もやや低迷しているとの声が聞こえる。また、個人活動についてはボーナス等が予想よりもやや思わしくなかったと結果からやや悪かった。
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村の調査や計画策定の委託業務は、今年度、発注する業務の数が少なく、6月の補正予算でも当県内の市町村では新たな予算計上は数が限られている。また、市町村は、業者選定でこれまで入札によっていたものを企画提案に切替えているところが多く、このため、大手の調査会社が受注するようになってきている。
悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏は例年受注関係も落ち込むが、今年は特に参議院選挙絡みで動かない。受注が大変少なくやりくりで苦労している。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ユーザーからの受注がさっぱり上がらない。輸出の動きが全く読めない。じっくり待つしかない。
雇用関連	良くなっている	-	-
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	・派遣期間の終了を見込んでいたいくつかの企業から更新継続や、新規の依頼があり求人数に動きがあった。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・インターンシップで来ていた来春大卒の内定状況を聞くと大変好調で、1人で数社の内定を得ている状況を聞く。業種も幅広く、現状は景気が良い。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月比18.7%増、9か月連続2けた増となった。主要産業では建設業16.0%減、サービス業20.0%減と減少したものの、卸売・小売業13.0%増、医療福祉37.4%増で依然として増加傾向で推移している。
		民間職業紹介機関（社員）	・熊本地域で求人依頼件数が増加している。地震復旧対策によるものかは不明。図面作成、事務、保険関連、テレオペなど全般的に件数増である。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は前年同月比で下回っており、その傾向が継続している。
	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・人材紹介よりも紹介予定派遣、正社員採用よりも契約社員採用と採用企業側のリスク回避の割合が増えた。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・株価低迷が影響している。
	職業安定所（所長）	求人数の動き	・当県の平成28年5月の有効求人倍率は1.23倍と、前月を0.05ポイント上回った。有効求人倍率は14か月連続で1倍台を維持している。
	職業安定所（職業紹介）	求人数の動き	・新規求人数、有効求人数ともに前年比で増加傾向であり、有効求人倍率も高い水準で推移している。正社員求人の数、割合も増加している。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・求人数については、前年度と同推移である。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・仕事の依頼数が今月は若干落ち着いている。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人は充足気味であり、新規需要もほぼない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新規求人が減っている。また、長期で依頼されていたが、短期へ変更になり自社で調整するという企業も数件出てきた。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年と比べた新規求人数の伸びが、5月をピークに鈍化している。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・求人数が増加している主な業種は外食、介護、スーパーマーケットのパートタイムである。事務系、IT系、営業系の求人は横ばい程度であり、需要が鈍い。

悪く なっている	-	-	-
-------------	---	---	---